

令和7年4月1日

令和6年度寄附講座活動実績報告書

寄附講座名：生活期リハビリテーション医学・医療推進学講座

所属長：三上靖夫

1 寄附講座の目的

地域包括ケアシステムにおいて、リハビリテーション医学に基づいた生活期のリハビリテーション医学・医療を効果的に推進していくための研究を目的とする。

2 報告年度に係る取組状況

- ・京丹後長寿コホート研究での要介護状態の予防に重要な因子の解析
- ・地域での多職種間の連携の在り方についての検討
- ・生活期のQOLを下げる中枢神経系疾患による痙縮に対する新しい治療法の確立
- ・サルコペニアに対する効果的な運動療法および栄養療法の確立
- ・その他、生活期のリハビリテーション医学・医療の活用に関する課題に対してエビデンスの積み重ね

3 報告年度における著書、論文、学会発表、講演、研究助成等の実績

原著論文

①Asaeda M, Mikami Y, Nishimura Y, Shimokawa T, Shinohara H, Kawasaki T, Kouda K, Ogawa T, Okawa H, Uenishi H, Kuroda R, Mikami Y, Tajima F, Kubo T. A cross-sectional survey of consistent rehabilitation through long-term care insurance in Japan: a questionnaire survey. Ann Med Surg (Lond). 85, 17-23:2023.

②Maeda H, Hishikawa N, Sawada K, Sakurai M, Ohashi S, Mikami Y. Wearable integrated volitional control electrical stimulation device as treatment for paresis of the upper extremity in early subacute stroke patients: A randomized controlled non-inferiority trial. Arch Phys Med Rehabil. 105(2), 227-234: 2024.

③Hishikawa N, Sawada K, Kubo M, Kakita M, Kawasaki T, Ohashi S, Mikami Y.

Kinesiophysiological analysis associated with changes in subjective intensities in belt electrode-skeletal muscle electrical stimulation: a prospective exploratory study. J Phys Ther Sci. 36, 284-289: 2024.

④Hishikawa N, Sawada K, Maeda H, Ikeda T, Ohashi S, Mikami Y. One-Leg Robotic-Assisted Gait Training Efficiently Improves Gait Independence for Acute Stroke Hemiplegic Patients: A Prospective Pilot Study. Am J Phys Med Rehabil. 103, 444-447: 2024.

⑤守田洋一郎, 菱川法和, 垣田真里, 河崎 敬, 大橋鈴世, 沢田光思郎, 三上靖夫. ボツリヌス療法と電気・磁気刺激療法を併用した脳出血後の痙縮を伴う右上肢麻痺の症例. 日生体電気刺激研究会誌. 37, 1-5: 2024.

⑥水谷純子, 浅田麻樹, 横山雅人, 兼松まどか, 堀井基行, 南 香織, 仲俣岳晴, 中西雄紀, 河崎敬, 三上靖夫. COVID-19パンデミックは、大腿骨近位部骨折の回復期リハビリテーション病棟在院日数に影響したか. 洛和会病医誌. 35, 6-10: 2024.

総説

①沢田光思郎, 三上靖夫, 垣田真里. 【痛み診療の新知見】疼痛とリハビリテーション医療. 京府医大誌. 133 (6) , 337-343: 2024.

②三上靖夫, 沢田光思郎. 【在宅におけるリハビリテーション診療マニュアル】在宅リハビリテーション各論 脊椎・脊髄疾患. MED REHABIL. 305, 101-108: 2024.

③松井善也, 大橋鈴世, 三上靖夫. 【テクニカルエイド-つくる自助具・使える自助具】(第4章)つくる編 自助具製作ボランティアとの連携. 作療ジャーナル. 58, 796-800: 2024.

④白石裕一, 的場聖明, 三上靖夫. 【障害者のかかりつけ医としての包括的リハビリテーション診療】慢性心不全患者のかかりつけ医としての包括的リハビリテーション診療. J Clin Rehabil. 33, 966-972: 2024.

学会発表

シンポジウム

①新庄浩成, 大橋鈴世, 沢田光思郎, 久保元則, 菱川法和, 三上靖夫. 京丹後の高齢者の24時間動作行動から見えてきた長寿の秘訣. シンポジウム 新たなるアプローチ: 高齢者の健康寿命を考える. 第43回日本臨床運動療法学会学術集会, 京都. 2024. 9. 14.

②山端志保. マルチモビディティと高齢者に対するリハビリテーションの課題. 教育企画・シンポジウム チームで創る最善の高齢者医療. 第35回日本老年医学会近畿地方会, 京都. 2024. 11. 16.

③三上靖夫. 柔道を活かした転倒予防. シンポジウム スポーツと転倒. 日本転倒予防学会第11回学術集会, 佐賀. 2024. 11. 24.

一般口演

①島原範芳, 佐藤信治, 菱川法和, 田中由紀, 澤田直哉, 奥田恭章, 大西 誠, 遠山将吾. 関節リウマチの生活全般ならびに、人生の満足度に関する研究—満足度低下の要因となるUnmet Medical Needsの世代間格差—. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸, 2024. 4. 19.

②菱川法和, 遠山将吾, 島原範芳, 三上靖夫. 関節リウマチ患者の身体活動と骨格筋量の関連に対する栄養状態の媒介効果. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸, 2024. 4. 19.

③遠山将吾, 菱川法和, 島原範芳. 骨格筋電気刺激法によるリウマトイドサルコペニアの治療法開発 (第1報). 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 神戸, 2024. 4. 20.

④沢田光思郎, 三戸岡奈津実, 菱川法和, 小寺勝也, 藤井 俊, 三上靖夫. ポリオ経験者に対する筋力増強訓練—針筋電図, 表面筋電図を用いて精緻化を行った1例—. 第50回日本生体電気・物理刺激研究会. 弘前, 2024. 4. 27.

⑤守田洋一郎, 垣田真里, 菱川法和, 河崎 敬, 大橋鈴世, 三上靖夫. ボツリヌス療法と電気・磁気刺激療法を併用した脳出血後の痙縮を伴う右上肢麻痺の症例. 第50回日本生体電気・物理刺激研究会. 弘前, 2024. 4. 27.

⑥前田博士, 菱川法和, 大橋鈴世, 沢田光思郎, 三上靖夫. 回復期脳卒中片麻痺患者に対する随意運動介助電気刺激装具の効果 (最終報) —IVESとの比較—. 第50回日本生体電気・物理刺激研究会. 弘前, 2024. 4. 27.

⑦新庄浩成, 大橋鈴世, 沢田光思郎, 久保元則, 菱川法和, 三上靖夫. 地域在住高齢者の24時間運動行動と抑うつ状態の関係—組成データ解析法と等時間置換モデルを用いた検討—. 第61回日本リハビリテーション医学会学術集会. 渋谷区, 2024. 6. 13.

⑧櫻井桃子, 菱川法和, 梶 健太郎, 沢田光思郎, 前田博士, 三上靖夫. 回復期早期の脳血管障害患者における食形態の違いと低栄養およびサルコペニアの関連. 第61回日本リハビリテーション医学会学術集会. 渋谷区, 2024. 6. 14.

⑨加古山悟, 菱川法和, 櫻井桃子, 西尾大智, 馬淵拓実, 前田博士. 脳血管障害患者の上肢骨格筋量に影響をおよぼす因子—回復期リハビリテーション病棟入院1か月の経過—. 第61回日本リハビ

リテーション医学会学術集会. 渋谷区, 2024. 6. 15.

⑩島原範芳, 山中貴弘, 佐藤信治, 山本直弥, 菱川法和, 田中由紀, 澤田直哉, 奥田恭章, 大西誠, 遠山将吾. 関節リウマチ患者の生活全般並びに人生の満足度低下の要因となるUnmet Medical Needsの世代間格差. 第52回日本関節病学会. 千代田区, 2024. 7. 19.

⑪山本直弥, 島原範芳, 菱川法和, 遠山将吾, 澤田直哉, 奥田恭章, 大西誠. 就労および子育て期の関節リウマチ患者に対する足底板導入の効果-疼痛・変形進行の抑制と身体活動促進を両立できた1症例-. 第52回日本関節病学会. 千代田区, 2024. 7. 19.

⑫近藤裕介, 濱中紀成, 木村匡男, 沢田光思郎, 三上靖夫. 頸部健側回旋が有効であった延髄外側梗塞の既往のある摂食嚥下機能障害の症例. 第55回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会. 橿原, 2024. 9. 28.

⑬新庄浩成, 大橋鈴世, 沢田光思郎, 久保元則, 菱川法和, 三上靖夫. 地域在住高齢者の24時間動作行動と炎症マーカーの関係-組成データ解析法と等時間置換モデルを用いた検討-. 第8回日本リハビリテーション秋季学術集会. 岡山, 2024. 11. 1.

⑭中西雄紀, 櫻井桃子, 菱川法和, 梶健太郎, 沢田光思郎, 前田博士, 三上靖夫. 脳血管障害患者の食形態の違いと低栄養の関係を媒介する因子-回復期早期での検討-. 第8回日本リハビリテーション秋季学術集会. 岡山, 2024. 11. 2.

⑮森直樹, 菱川法和, 西尾大智, 中西雄紀, 梶健太郎, 沢田光思郎, 前田博士. 脳血管障害患者の歩行自立可否に関連する因子-下肢麻痺重症度別での決定木分析を用いた検証-. 第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 岡山, 2024. 11. 3.

⑯山崎泰志, 安間友美, 菱川法和, 土井渉. 視空間認知障害が疑われたアルツハイマー型認知症の1例-介護老人保健施設から自宅復帰を目指して-. 第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 岡山, 2024. 11. 3.

⑰西尾大智, 菱川法和, 櫻井桃子, 梶健太郎, 中西雄紀, 沢田光思郎, 前田博士. 脳血管障害患者の低栄養と日常生活活動の改善効率との関連-回復期リハビリテーション病棟入退院での検証-. 第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 岡山, 2024. 11. 3.

⑱戸田美美, 沢田光思郎, 井元大介, 大高洋平. ポリオ経験者の症状と身体活動の関係. 第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 岡山, 2024. 11. 3.

⑲北澤瑞希, 近藤正樹, 大道卓摩, 松井善也, 三上靖夫. 脳梗塞により着衣障害を呈した症例に対する作業療法-視覚代償と着衣手順の口頭指示により着衣動作が改善した1例-. 第58回日本作業療法学会. 札幌, 2024. 11. 10.

⑱山本直弥, 島原範芳, 菱川法和, 遠山将吾, 大西 誠. 就労および子育て期の関節リウマチ患者に対する足底板導入の効果-疼痛・変形進行の抑制と身体活動促進を両立できた1症例-. 第39回臨床リウマチ学会. 浜松, 2024. 11. 30.

講演

①三上靖夫. 関節リウマチ患者の活動を支えるリハビリテーション診療. 第14回 泉州リウマチ膠原病談話会. 泉大津, 2024. 6. 22.

②三上靖夫. 関節リウマチ患者の活動を考える. 第20回 茨城リウマチケア研究会. つくば市, 2024. 9. 13.

③三上靖夫. かかりつけ医は高齢者の腰痛にどう対応するか 在宅患者のためのリハビリテーション診療. 京都府リハビリテーション教育センター第21回座学研修会. 京都, 2024. 10. 5.

④三上靖夫. その体幹装具は生活を妨げていませんか? 第40回日本義肢装具学会学術大会. 福岡, 2024. 11. 10.

研究助成

①文部科学省科学研究費基盤研究 (C) 三上靖夫. 高齢者の活動が健康寿命に与える影響 -京丹後長寿コホート研究から-. (22K11452)

②厚生労働省厚生労働科学研究費 三上幸夫, 田島文博, 久保俊一, 三上靖夫, 河崎敬, 幸田 剣, 大川裕行, 上西啓裕, 篠原 博, 黒田るみ, 浅枝 諒, 下川敏雄, 尾川貴洋. 要介護者に対する疾患別リハビリテーションから維持期・生活期リハビリテーションへの一貫したリハビリテーション手法の確立に関する横断研究. (20GA1001)

③厚生労働省長寿科学政策研究事業 令和5年度～令和7年度 三上幸夫, 安保雅博, 三上靖夫, 西村行秀, 大高洋平, 佐々木信幸, 百崎 良, 新見昌央, 羽田拓也, 河崎敬, 西山一成, 中山恭秀, 北村 新, 清水美帆, 秋田智之, 塩田繁人, 吉川浩平. 生活期リハビリテーションにおける介入手法の標準コードの開発研究. (23GA2001)

※欄内におさまらない場合は枠を広げて記入のこと。

※大学ホームページ等において公表することとなるので、秘密情報については記載しないこと。